

(Lonely Night Gathering)

さみしい夜の句会報 第63号 (2022. 11. 27-2022. 12. 4)

- ◆ 参加者 徳道かづみ、電車侍 しまねこくん、石原とつき、小松百  
合華、宮坂愛哲、S.S. さー、風池陽一、太代祐一、菊原綾子、花野  
玖、yasu、日下呉、むくみんママ、木野清瀬、チヌーバ、2022、  
西脇祥貴、藤井卓、おかもとかも、とろぼーる、海馬、元さん、菊  
池洋勝、雪の空SO、A、雪上晴也、ゆりのはなこ、あ、KBLB、岡村  
知昭、ひとこぶ、流天神音(てしお)、雪上牡丹餅、Ryu sen、蔭一郎、  
涼閑、みさきゆう、hyutoppa、片羽 anju、雲雀、森内詩紋、mugwort、  
かのん☆後半半人生の途中、銀の花、金瀬達雄、橘明月子、西沢葉火、  
夜間戦闘、蜜、直美、水の眠り、高良俊礼、梓川葉、望月華(もちつ  
きはな)、のこりか庵、天やん、まつりべきん、きんぎょ、雪夜葦屋  
鷺沼くぬぎ、式定住佳、輪井ゆう、【蛇ノ道】星野響、najimi、石川  
聡、maria、ぼっぼ、棚場田敦也、kubohiroko、crazy lover、  
さこ(砂狐)、鴨川ねぎ、桔梗葦、日月星香、東二子、斌、正念亭  
若知古、千春、あんこ、たろりずむ、抹茶金魚、Nobeuze、愛川 絢加  
IZU、しろとも、ちゅんすけ、常盤みどり、瑠璃(Ruri)、柊 秘密子、  
雛子、soundonly、須藤はる、鷹枕可、月立耀、ニンナンナ、Shunsato、  
名犬、ぼち、大本伸彰、千羽はる、東谷駿吾、わたなべじゅん、月  
波与生(一〇一名)

◆ 7・7詩、5・7・5詩

花道にキヤットフードが散らばって 海馬  
ジエイウオークで切り刻め 海馬  
間違えて塗ってしまったムヒが効く たろりずむ  
コストリカに負けて防衛費を増やす 雪上牡丹餅  
瞬きにしては透明な鱈だ 抹茶金魚  
ドーナツと金木屋が合図した 千春

forget - me - not 尾崎より年下だった時もあったんだよな  
しろとも

マントラを唱えてモグラにはなれた 岡村知昭  
案山子には案山子同士のための嘘 しまねこくん  
わたくしの絶対数がわからない 水須ゆき子  
捨てるべき所を探す長い鼻 西沢葉火

街灯に中原中也を読み聞かす rajini  
みじん切りすれば小さくなる炬燵 しまねこくん  
論点をずらし続けて枯野まで しまねこくん  
火をのせて十一月は沖へ出る 蔭一郎

何枚も開く襖の果てに海 蔭一郎  
November の扉を閉めて見る火星 鷺沼くぬぎ  
冬雷は音がはんぶん糖がはんぶん 西脇祥貴  
青天のバックドロップみんな前夜 西脇祥貴  
切実が常に紛れている夕陽 高良俊礼

濁音を押せば調べの出る街へ 高良俊礼  
代案がスターバックスから届く 太代祐一  
火葬場でピアスの骨を探してる 菊原綾子  
世の中にある矢印を全て消す 雪上牡丹餅  
結果はどうあれ3分クッキング 雪上牡丹餅  
練乳を吐き出すだけの性行為 菊原綾子  
モンキチョウの倍数に甘えてしまった 石原とつき  
マサ斎藤だらけの鏡店 石原とつき

殻付きの牡蠣が財布に残るのみ しまねこくん  
どの技も受けきってこそ年の暮 宮坂変哲  
独りきり煙草を吸いに冬的大海 宮坂変哲  
ハブられる理由はきつとpoint 雪上牡丹餅  
ラウンドの間に出して来る炬燵 しまねこくん  
加減を知らぬ押しくら鰻頭かな 菊池洋勝  
知らぬ間に殺すリストに入れられて 木野清瀬  
祖父の句に孫として出る私達 さー

ハッピーターンは幸せか 徳道かづみ  
色変えぬ 松や城址は 人も無し 電車侍  
緊急速報メールあり背中から紅葉（もみじ）すべし ESG  
杜の奥山茶花一つ開く夜 花野玖

比べれば悲しみ尽きぬ冬ぎくら *syusyu*

イルミネーションの眩しさは幻想の内に 日下晃

石段を数えて降りる師走かな チューバ2022

雨後の欠片も 無花果の粒も 懲らしめる 藤井皐

萌え萌えキュン 選択肢ナシ おかもとかも

微熱出てぼんやりと飲む葛湯かな とるぼとる

バス去りて何事もなく咳ばらひ 雲上晴也

風船になつて社会を軽くした ゆりのはな

彼の丘に白木十字と凧 あ

葉の上に空山転ぶ雨滴かな 流天

「ぬばたまの」ぬばのほとりに置くレモン *Ryu sen*

胸もとに守り刀を抱く人魚 涼閑

吾を映しはせぬかその冬の瞳 *hyutoppa*

繰り返す孤独な夜と満ちる月 片羽 *anju* 雲雀

ちやぶんぼたんとゆたんぼのやさしさ 森内詩紋

しみしみのたまこんにやくのうつくしさ 森内詩紋

天狼一閃穿つスカイツリー *mugwort*

小春日に カフェオレお供に プチ冒険 かのん

淡い恋解けて消えてく雪うさぎ 銀の花

法廷にゼリーに乗ったスクナビコ 金瀬達雄

熊眠るドーナツの穴食べながら 橘 明月子

カタルや砂漠の地にも雨あられ 風池陽一

欠けた月堕ちた先つてきつと森 水の眠り

デロンギの傍にはりつく猫もどき 梓川葉

司祭館ベッドの下の三死体 のこりか庵

百年の孤独が溶けて食うおでん 天やん

占いの結果を弄る爆心地 まつりぺきん  
ため息を 落とすカップに 冬木立 かのん  
石菫の花この時だけは主役よと 水の眠り  
空風や旧き馴染みの報を載せ 雪夜替言星  
戯れに雀も踊る鬼の宿 式定住佳  
雨の夜さあ蠢けよアスファルト 輪井ゆう  
爪先がもうオリオンに届く頃 星野響  
遠い過去に埋めた人は眠る山 あ  
落ち込むと来てくれる三毛 石川聡  
もみぢ葉の紫ちるちる秋雨夜 m a r i a  
粕汁を 自画自賛して 時節知る かのん  
憂鬱を埋めたら咲いた鬱金香 Kubotahiroko  
無防備寝姿にくいヤツ crazy lover  
追いかけた夢でくらった猫パンチ さつ  
こたつにはねこねこねこねこねこねこ 鴨川ねぎ  
落ち葉で埋め尽くされた通勤路 黎明  
夢は嫌だから直ぐに落ち着きたい 日月星香  
約束は忘れて月を愛でている 東こころ  
ひつじスポンジおろした今日はカレー 斌  
からすに せんどう されてる さんぽみち 正念亭 若  
知古  
陽性の血液を蚊にくれてやる たろりずむ  
眠りへと鑄型に抜かれ墜落す Kobenze  
最近寂しいから TikTok も投稿してます 愛川 絢加  
絶園の冬にも冬の良い匂い IZU  
ゴミ捨て場自分の死体が増えてる 天やん  
不確定要素としてのキリン堂 ちゅんすけ  
離れてる気持ち知らせる糞雨 雛子  
もの足りぬ落葉の深さ昼の月 鷺沼くぬぎ  
水銀灯枯れ葉宇宙に透かす道 soundonly  
消さないでおこう砕け散るものだから 月波与生

◆ 7・7、5・7・5以外の短詩

読点を間違えたまま施錠して明日になれば ただの小嘶  
しるしとも

「どちらさん？」わたしは孫ではなくなって祖母は祖母では  
なくなっていく 小松 百合華

キスだった 確かにあれはキスだった 豆腐に唇つけたよな

キス 小松 百合華

雪降れば思い出す人いることを誰にも言えずにまた冬が来  
る 小松 百合華

いつまでも神前に立ち手を合わす母の背中に手を合わす子  
ら 風池陽一

幾年も過ぎて尚思い出しその優しさに泣いている むくみ  
んママ

寒月と夜の魔法でビルの群れたあのジオラマ小さく見える  
元さん

あの頃を君は忘れたようだからわたしも記憶裂いて捨てる  
ね 雪の空SOのA

アマンドはフォームがとてもきれいだねフィギュア相手に  
眩いてみる KBL:ip

途中まで食べたところで気が付いた味噌入れてないじゃん  
お湯ラーメン ひとつぶ

雨粒のはねて消えゆく水紋と記憶のかけら響くパヴァーヌ  
みさきゆう

傷口がズキンズキンと疼くのは心が言葉を持たないからか  
みさきゆう

こんにちは、ヴィーナス満ち欠けを見えます  
まっすぐ撃たれた冷たい光 夜間戦闘

夜露ふる深きため息肩に受け凍える心包むやその手 直美

好きやわと指でなぞられ好きになる父に似ているらしい鷺  
鼻 望月華

美しい思い出この町の軒先で朽ちてゆく犬小屋たちよ  
ヤ  
ン  
グ

さしあたりあの日の夢が目の前の極彩色のケーキであると  
棚場田敦也

蛇みたい夜に騙され気づかない無数のコード絡まるイルミ  
あんこ

今日だけは明日からはを繰り返して枯れ果てていく日々と私  
が 常盤 みどり

白黒の球の行方も知れずして夢は木枯らしの彼方に霞むな  
り 瑠璃

きみのいる世界は少しやさしくて涙がでるよ手を繋いでて  
終 秘密子

真っ白い鳥の凍って墜落し雪と呼ばれる冬がじき来る 須  
藤はる

正しさの雁字搦めに囚はるる正気の黴壁呪ひさびつつ 鷹  
枕可

◆ 詩

私には 誰にも言えない

「秘密」がある

だから 「呪い」のように 「祈り」続ける

いつか溶けて 「無」に帰すように

と

私には 誰にも知られては

「イケナイ」「秘密」がアル (蜜)

押し花や 無賃列車と鑑みた  
皺の蔓延 浄財よ鳴れ  
真相の 螢火生きた  
火葬の途 群れたら最期 門前に散る  
暮れ泥む 呼吸の在処 死の目覚め  
リヤカー笑んだ 告訴の麻酔や 汝に非  
乏しき穴場 情愛や  
抱き合え寡黙 挟みの我が禍 (蛇ノ道)

◆作品評から

「どちらさん？」わたしは孫ではなくなって祖母は祖母では  
なくなっていく、小松 百合華

〜じんとしました…。祖母のこと思い出して…。

色んなことあったなあ、と。

ありがとうございます。(月立耀)

〜ばあちゃん…仕方なくても寂しいですね…。(ニンナナ  
ンナ)

独りきり煙草を吸いに冬の海 宮坂変哲

〜孤独感を感じさせる言葉を。連で重ねて来たのが良い  
ですね (ShunSaito)

あの鳥は私をヒトの標本と見ている 窓の向こうは流動  
みさきゆう

〜窓の向こうにいるのは鳥なのか私なのか。標本という  
確かなものと流動という不確かなもの。窓を挟んで揺らぐ  
平衡感覚。(月波与生)

論点をずらし続けて枯野まで しまねこくん

〜故郷をはなれて速き赤とんぼ(名犬 ぽち)

鯛焼を裏返したら裏の顔　しまねこくん

　　「裏返したら裏の顔」は裏切りで別の何かを読み手は期待する。そして裏の顔を裏返したら表の顔になるかといえ、やはり「裏の顔」。世界はありのまま以上には変わらない。(月波与生)

ハッピーターンは幸せか　徳道かづみ

　　「ヒールターン。踵を返す。ここから幸せに向かうのか、それとも幸せはこれまでか。いいえ幸せは、今のこの時。ポリポリ。(西沢葉火)

必要とする時にだけ集められ捨てられていく側の僕です  
常盤　みどり

　　「集められた瞬間に「捨てられていく側」であることがわかる。なぜなら僕だから。哀しいとは思わない。なぜなら僕だから。(月波与生)

何枚も開く襖の果てに海　蔭一郎

　　「昔話に『見るなの座敷』というのがある。この海に漕ぎ出したらきつと戻れなくなるのだろう。(森内詩紋)

人生の2%を皿洗い　soundOnly

　　「人生、と大上段に構えながらその内の2%の話をする落差。ひろゆきの本『2%の努力』のアイロニーになっている。ような。(月波与生)

青天のバックドロップみんな前夜　西脇祥貴

　　「青天と岩石落としては霹靂を介して繋がるけれど前夜はどうにも繋がらない。同質なもの組み合わせ異質なもの組み合わせ普通だがそれが同居しているところが面白



い。(檀崎進弘)

街灯に中原中也を読み聞かす na:rim.

〜いいなあ。何の詩だろう。(大本伸彰)

メイド型アンドロイドの液漏れを直すために行くゴースト  
タウン 夜間戦闘

〜「液漏れ」はモノが壊れていく予兆でありヒトの生理  
でもある。ヒトに戻らないために人のない街へ行く。(月波  
与生)

しみしみのたまこんにやくのうつくしさ 森内詩紋

〜さ、これ好き……(千羽はる)

臀筋を野性保護区に指定した Ryu'sen

〜臀筋はお尻の筋肉。野生ではなく野性。ここを鍛える  
とヒトとしての佇まいに緊張感が出て来るので男女問わず  
保護区にしたいもの。(月波与生)

傷口がズキンズキンと疼くのは心が言葉を持たないからか  
みさきゆう

〜外から見えにくい痛みを自覚的に言語化するの、け  
っこう大手術が要るのよねえ……などと1日考えて、今。

(森内詩紋)

落ち込むと来てくれる三毛 石川聡

〜寄り添わぬ三毛のいる家の橙(東谷駿吾)

ジェイウオークで切り刻め 海馬

〜よもぎの Walk (わたなべじゅんこ)